

“ふるさとちば”のための政策推進を

つるおか 宏 祥 鶴岡ひろよし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会 〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話 043 (227) 7411

ふるさとと茂原市の発展へ全力投球

茂原にいなる工業団地造成再開、県が検討へ

多くの茂原市民から付託を受けた鶴岡宏祥(つるおか・ひろよし)県議が、県議会の舞台に登場してからちょうど一年。この間、鶴岡県議は愛してやまない茂原市を笑顔でいっぱいにするべく、県議会の内外で積極的な活動を続けてきました。



2月県議会一般質問で、県の行政方針を聞く鶴岡宏祥県議

二月県議会では、一般質問のために登壇し、地域に係わる様々な課題の改善のために多岐にわたって県当局の方針を質しました。なかでも、バブル崩壊のため造成が中止された「茂原にいなる工業団地」整備の再開を提案し、県も前向きな姿勢を示して注目されました。

茂原市特集 2月県議会一般質問

鶴岡議員 茂原市では、昭和六十一年に地域振興と雇用の創出を図るため、茂原工業団地の造成を行い、工場誘致など順調に進み、当初の計画どおり事業が完了した。その後、茂原市や県の要請を受けて、平成四年に県土地開発公社が茂原工業団地に近接した場所に「茂原にいなる工業団地」の事業化を決定し、用地買収を行った。

しかし、バブルが崩壊し景気が低迷する中で、県の行政方針もあって、造成が中止となり、未造成のまま今日に至っている。現在、状況は大きく変わり、アクアラインの料金引下げや圏央道の整備促進により、周辺地域の立地優位性が大きく高まっている。特に圏央道茂原市内のインターチェンジ予定地から約二キロに位置する「にいなる工業団地」用地は、今や注目の場所となってきた。

県の総合計画で新たな工業団地の整備を掲げ、アクアライン活用戦略にも「圏央道沿線地域等への企業立地の促進と地域産業の振興」を掲げた。この「にいなる工業団地」は、まさにこの総合計画の適地中の適地であり、工業団地不足の解消や県の方針にもつながるものと思われる。

この工業団地が早期に整備され、企業が立地することにより、地域経済の活性化と、地

域を担う若者の雇用の場が確保されることであると考える。そこでうかがうが、圏央道の開通が見込まれる中で、造成を中止した「茂原にいなる工業団地」を活用すべきと思うがどうか。

商工労働部長 今回の総合計画においては、企業ニーズや事業採算性を考慮した新たな工業団地の整備を市町村と共同で行っていくという方針を掲げたところだ。

共同で実施する場合の市町村の役割としては、工業団地内の道路など、市町村が最終管理者となる公共施設の整備を担ってもらうことを考えているところだ。「茂原にいなる工業団地」周辺については、圏央道の進展により、立地環境の優位性が高まってきたことから、新たな方針を踏まえ、工業団地の整備の可能性について、地元市や関係機関と検討を進めていきたいと考えています。

圏央道木更津・東金24年度開通見通し

鶴岡県議 次に道路問題ですが、第一点目として、圏央道の木更津・東金間の整備の進捗状況と今後の見通しはどうか。

鶴岡ひろよしプロフィール

○経歴○

- 昭和27年12月 茂原市早野生まれ
- 昭和50年3月 立正大学経済学部卒
- 昭和50年4月 千葉県共済農業協同組合連合会勤務
- 平成5年1月 みなみスポーツセンター代表取締役
- 平成9年7月 茂原市農業委員初当選
- 平成13年4月 茂原市議会議員初当選
- 平成21年3月 県議会議員初当選

○現職○

- 県議会 健康福祉常任委員会委員
- 千葉県 生活衛生適正化審議会委員
- 茂原市 県野球協会茂原支部顧問

県土整備部長 当区間の一月末時点の用地取得率は約九六%であり、事業者である国や東日本高速道路株式会社は、現在、残る地権者に対し、任意による用地取得に努めておりますが、土地取用手続きも併せて進めているところです。国の来年度道路予算の基本方針に、直轄事業は開通時期が近いものを優先する、とされていることから、県としては、平成二十四年度の開通が目標通り図られるものと考えております。鶴岡県議 第二点目として、県道茂原環状線の整備の進捗状況と今後の見通しはどうか。県土整備部長 県道茂原環状線については、茂原市街地を迂回する延長約二キロの環状道路であり、これまでに、約十四キロの整備が完了したところであります。現在、茂原市小林工区及び上永吉工区、長南町坂本工区で合わせて四・三キロ区間の現道拡幅整備を実施しているところです。

●茂原市や県政のご相談、ご要望をお聞かせください

鶴岡ひろよし 県議事務所 〒297-0037 茂原市早野2130
TEL.0475(27)2601 FAX.0475(26)2839

茂原市特集

2月県議会一般質問

直結します

県政と市政

鶴岡ひろよし

おつかい

宏

祥

県議

一刻を争う救急患者のために

病院情報集約し 円滑な搬送実現



長生郡市消防本部の救急活動を視察する鶴岡宏祥県議

鶴岡県議 地域医療の問題ですが、山武・長生・夷隅地域の救急医療体制の現状を見ますと医師数や看護師数が非常に少ない。人口十万人あたりの医師数について、全国平均が二百三十人であるのに対し、山武・長生・夷隅地域では、九十六人と、実に半分以下。また、看護師数についても、人口十万人あたり全国平均では六百八十七人であるのに対し、二百七十二人という大変厳しい状況にある。次に、県民の生命に関わる、この地域の救急搬送ですが、平成二十年度に実施した救急搬送の実態調査によると、県平均の救急搬送に要する時間が三十分未満である割合は四〇%で、山武・長生・夷隅地域ではその割合は二〇%となっている。

また、この地域の圏域外への、救急搬送率は三四%と、搬送する患者さんの三人に一人を圏域外に運ばざるを得ない状況にある。そこで、山武・長生・夷隅地域のこのような現状を、県はどのように認識しているのか。また、地域医療再生計画では、救急搬送の円滑化のためにどのような事業を予定しているのか。

知事 山武長生夷隅地域では、重篤な患者を受け入れる救命救急センターがないことや、初期・二次救急医療機関の弱体化により、円滑な救急搬送が他の地域よりも困難なことが問題と考えております。

そこで県といたしましては、山武長生夷隅医療圏を地域医療再生計画の対象地域として選定し、初期・二次救急医療機関の強化とともに、東金九十九里地域医療センターにおける救命救急

農産物新品種開発に努力



再質問では県の施策へ要望を行なった

鶴岡県議 日本農業が抱える構造的な問題に直面している本県農業だが、第一点目として、新品種の研究開発にどのように取り組んできたのか。また、今後の開発への取り組みはどうか。

知事 本県農業のさらなる発展を図るためには、消費者ニーズを的確に捉えた、おいしくて、形が良く品質に優れた本県独自の新品種を育成することが、極めて

センターへの支援など、役割分担に応じた受け入れを行えるよう、計画を策定いたしました。

また、当計画においては、医療機関の受け入れ可能情報と共有するシステムを整備し、千葉県救急医療センターが適切な医療機関に搬送調整を行うことで、より円滑で適切な救急医療体制の構築をまいります。

重要であると考えています。このため、県では、新品種育成に向けたプロジェクト研究に取り組み、味が良く収量の多い水稲「ふさこがね」、ゆで豆に向く、おいしいジャンボ落花生「おおまさり」、大きくて丸く、形揃ったサトイモ「ちば丸」などの品種を育成したところです。

今後は、さらに、売れ筋商品の調査や直接消費者の

具体的には、消費者ニーズに対応した、新品目導入による新産地の育成や既存産地の再生等による生産力の強化、販売額三千万円以上を目指すアグリトッププランナーや集落営農組織など多様な担い手の育成、農協やスーパー、直売所と連携した多様な流通・販売戦略の構築などを展開しているところであり、今後、これらの取り組みを一層強化し、農家所得の向上を図ってまいります。

来年度は、測量などを実施するとともに、河道改修計画の策定を行います。今後は、地元や関係機関のご協力を得ながら、早期整備に努めてまいります。

声を聞くなど消費者ニーズを探り入れ、おいしくて機能性の高い優良品種の育成に努めてまいりますと考えています。

鶴岡県議 第二点目として、農家所得向上のため、今後どのように普及活動を展開するのか。

農林水産部長 本県では、地域の特性を活かした農業・農村の振興を図るため、儲かる農業の実現を目指し、産地づくりや担い手育成などの普及活動に取り組んでいくつもりです。

その上流部の獅子吼橋から市兵衛橋までの約一・八キロ区間については、今年度、学識経験者、地域住民代表、地元市町村長を委員とする「宮川流域委員会」で整備計画が承認され、事業実施の合意が図られました。

要望

- (1) 医療過疎といわれている、山武・長生・夷隅地域にとっては、救急搬送は切実な問題。救急コーディネーターの1日も早い実現を要望します。
- (2) 「茂原にはる工業団地」について早めの対応、そして検討をお願いします。
- (3) 圏央道の24年度中の1日でも早い開通を、強く要望いたします。茂原環状線につきましても、残りあと8キロ、早期の完成を要望します。

阿久川未改修部分 来年度、測量に着手

鶴岡県議 河川整備だが、阿久川上流部の未改修区間について今後どのように整備していくのか。

県土整備部長 二級河川阿久川については、県管理区間約七・六キロの内、一宮川合流点から獅子吼橋までの約五・八キロ区間について、平成十三年度までに、概ね十年に一度発生する洪水が安全に流下できる改修が完了しています。